

「徹底攻略 常微分方程式」(共立出版, 2014) の訂正

初版5刷(2014/3), 初版6刷(2014/9)

2021.4.23 真貝寿明

初版5刷(2014/3) および初版6刷(2014/9) について, たいへん申し訳ありませんが, 次の訂正があります.
このお知らせは, <http://www.oit.ac.jp/is/shinkai/book/> にて更新しています.

場所	誤	正
p45 傍注	(3) $y = 1$ は特異解. (4) $y = 0, 1$ は特異解.	(3) $y = 1$ は変数分離法では別扱いになるが, 特殊解となる. (4) $y = 0, 1$ は別扱いになるが, $y = 0$ は特異解, $y = 1$ は特殊解である.
p57 例題 2.13 (3) 例題 2.13 (4)	(傍注) 例題 2.15(7) で未定係数法を用いても解く. さらに, (傍注) 例題 2.15(8) で未定係数法を用いても解く. さらに,	削除 削除
p78 (2.8.47) 式	$\frac{dm}{dv} = -\frac{m}{u+v}$	$\frac{dm}{dv} = \frac{m}{u+v}$
p84 研究課題 2.4	(答え 2 行目) $\beta = 0.3$ (答え最後) $z(t)$ が感染者数の推移である. (答え図)	(答え 2 行目) $\beta = 0.4$ (答え最後) $y(t)$ が感染者数の推移である. (答え図) $y(t)$ と $z(t)$ の線指示入れ替え.
p198 問題 7.5	解析解 $y = -\cos x$ と比較して	解析解 $y = -\cos x + 2$ と比較して
p199 傍注	リヒトマイヤー (1910-)	リヒトマイヤー (1910-2003)
p207 中央付近 下から 4 行目	Integrate[関数, 微分する変数] NIntegrate[関数, 微分する変数]	Integrate[関数, 積分する変数] NIntegrate[関数, 積分する変数]
p221 問題 2.2 (1) 問題 2.2 (3) 問題 2.14 (1) 問題 2.14 (3)	なお, $y = 0$ も特異解である. $y = e^{\log x +C} = C_1x$ 1 行目 $e^{\int(1/x)dx} = e^{\log x +C_1} = C_2x$ より, 2 行目 $e^{\int(2/x)dx} = e^{2\log x +C_1} = C_2x^2$ より,	なお, $y = 0$ も解 (特殊解) である. $y = \pm e^{\log x +C} = C_1x$ $e^{\int(1/x)dx} = e^{\log x +C_1} = C_2x$ より, $e^{\int(2/x)dx} = e^{2\log x +C_1} = C_2x^2$ より,
p222 問題 2.29 (1)	$x^4 + y^4 + 4x^2y + 4xy^2 = C$	$x^4 + y^4 + 4x^2y + 4xy^2 = C$
p233 索引	Richtmyer, R.D. (1910-)	Richtmyer, R.D. (1910-2003)

§7.2 の Mathematica に関するコマンド・出力は, 初版 12 刷 (2021/3) より Mathematica 12.1 に対応させました. ほとんど変更はありませんが, p211 のベクトル図の表示方法が変わっています.

- Mathematica 8 以降では, PlotVectorField ではなく, VectorPlot を使うようになっています. たとえば, 次のようにすると, 同様の図が描けます.

```
VectorPlot[{1, y/2}, {t, -2, 2}, {y, -10, 10},
  VectorPoints -> 20, AspectRatio -> 0.7,
  VectorScale -> {0.04, 0.2, Automatic}, Frame -> True]
```

- Mathematica 12.1 以降では, 以下のようにすると, 同様の図が描けます.

```
VectorPlot[{1, y/2}, {t, -2, 2}, {y, -10, 10},
  VectorPoints -> 20, AspectRatio -> 0.7, Frame -> True]
```